

現代ランドスケープデザインの構成手法に関する研究：2
周辺環境と全体構成

正会員 ○ 石田 潤*
同 藤田 大海*
同 岩岡 竜夫*

1. 序

現代ランドスケープデザインにおいて、前編では敷地内部の構成手法に着目し、構成要素の使われ方と配置パターンという視点で考察した。本編では敷地周辺の領域的性格及び敷地自体の形状から全体の配置構成への影響をみることを通して、いくつかの特徴的なランドスケープデザインの構成手法における性格を導く。

2. 周辺環境と敷地境界の限定条件

まず、ランドスケープの内部構成に影響する外的要因として周辺環境の性格と敷地境界の限定条件が考えられる。「周辺環境」では、敷地が何によって領域限定されているか、またそれに隣接する環境の性格がどのようなものかを検討する(図1)。これには大きくわけて、建築による領域限定が強い「建築型」から、建築による領域化が弱い「郊外型」までがある。「敷地境界の限定条件」では、周辺環境と敷地との境界部を考察し、アプローチの限定要素が何かということを検討する。これには周辺との高さの変化で限定されている「高さによる限定」から「敷地外要素による限定」「人工的な限定」、限定要素のない「完全開放」がある。

表1は以上の設定より「周辺環境」と「敷地境界」の両者の

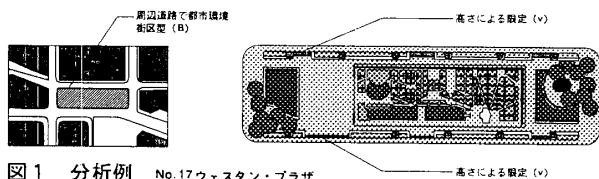


図1 分析例 No.17ウェスタン・プラザ

表1 敷地の領域的性格と敷地境界の限定条件

敷地の性格	敷地境界の限定条件	高さの変化による限定 (v)	敷地外要素による限定 (w)	人工的な限定 (x)	敷地内の差による限定 (y)	完全開放 (z)
建築型 (A)		1	15	0	0	0
街路+建築型 (S)		3	5	3	4	3
街区型 (B)		8	2	1	6	13
街路+空地 (F)		3	2	0	0	1
郊外型 (N)		10	3	5	2	10

・表1-表3中の数字は全て作品数を表している。

関係を全ての資料において考察したものである。その結果、「街路+建築型」には多様な領域限定がみられ、「街区型」は「高さの変化による限定」と「完全開放」が多くみられた。

3. 敷地の形状

次に、敷地そのものもあわせている物理的な性格を検討するために、敷地の平面形状及び敷地の断面形状を考察する(図2)。表2は敷地の輪郭及びスケールの関係を示したものである。輪郭はおおよそ四角の角をもった「矩形型」か敷地に鋭角をもった「三角型」、それ以外の「不定形型」にわけられ、スケールは面積の差異より「小」「中」「大」とした。その結果、スケールが「小」であるものには多様な型がみられ、「中」「大」には「不定形型」が多くみられた。さらに表3は敷地の断面形状及び形状変化の位置の関係を示したものである。断面形状は、変化のない「平坦」から「傾斜」「起伏」「一段」「段状」「突起」「陥没」がそれぞれあり、また形状変化の位置は「全体」「中央」「中央複数」「際」「際複数」「混在」「周囲」がある。その結果、表のように多様な関係がみられた。

4. 周辺環境と全体構成

表4は全体構成における周辺環境からの影響を考察するため、周辺環境を縦軸に、前編における全体構成を横軸にマトリ

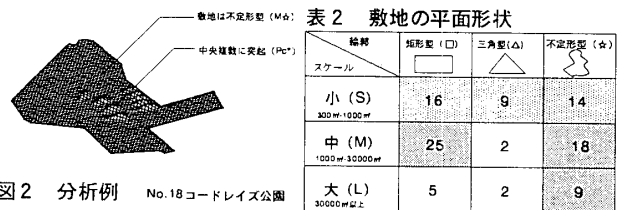


図2 分析例 No.18コードレイズ公園

表2 敷地の平面形状

スケール	矩形型 (□)	三角型 (△)	不定形型 (☆)
小 (S) 300㎡-1000㎡	16	9	14
中 (M) 1000㎡-30000㎡	25	2	18
大 (L) 30000㎡以上	5	2	9

表3 敷地の断面形状と形状変化の位置

<地>の形状	形状変化の部位						
	全体 (w)	中央 (c)	中央複数 (c')	際 (e)	際複数 (e')	混在 (m)	周囲 (d)
平坦 (F)	28						
傾斜 (I)	6	0	0	5	0	0	0
起伏 (U)	5	0	3	0	0	1	1
一段 (O)	0	3	0	2	0	0	0
段状 (S)	14	2	0	2	1	0	0
突起 (P)	1	2	6	3	2	0	1
陥没 (D)	0	8	1	1	0	2	0

Study on the form of Contemporary Landscape design:2
Environment and Composition

ISHIDA Jun, FUJITA O-mi and IWAKA Tatsuo

クスを作成し、作品の頻度による分布から「周辺環境と全体配置」による類型を導いたものである。

類型-Iは周辺環境の影響をあまり受けない郊外型で、敷地形状は不定形でスケールが[小]で成立している単一パターンによるもの。類型-IIは敷地の形状が矩形型であることで成立している対称パターンによるもの。類型-III、IVは建築による領域化が強い都市的環境の中で敷地のスケールが[小]、[中]で成立し、階層化のみられないオーバーレイパターンによるもの。類型-Vは郊外型で敷地の形状は不定形でスケールが[中][大]で成立している散在パターンによる類型である。なお各類型の代表例を図3に示す。

以上ここでは敷地内における統合手法と周辺環境による領域的性格というふたつの視点で考察した。その結果、単一パターンは郊外に多くみられ、並置、対称パターンは周辺環境に関係なく均等にみられ、オーバーレイ、散在パターンは敷地のスケールと

周辺環境に密接な関係がみられた。

5. 結

以上を総括すると、前編では各構成要素の特性による配置パターンから全体の構成手法における特徴がみられ、本編では周辺環境と敷地形状より全体構成に関わる関係がみられた。この両者には、「恣意的な構成により周辺環境との関係性がみられないもの」と「全体に明瞭な統合はみられないが周辺環境との関係性がみられるもの」という二つの相関関係がみられた。

このことより、ランドスケープデザインとは全体を構成するための<床><壁><天井>が存在する建築とは異なり、床的要素と壁的要素が構造から解放されたことで<部分>と<全体>の関係は必ずしも階層をもたず、自由な関係にあると捉えることができ、その中で敷地の領域的性格や恣意的形状から多様なパターンを造り出す操作であるということが出来る。

表4 領域的性格と全体構成による類型

周辺環境	全体パターン	単一	並置	対称	オーバーレイ	散在
建築型 (A)		[小] 32.v0m□ [中] [大]	[小] 65.wFw□ [中] [大] 30.wFw★	[小] 21.wFw□ [中] [大] 79.wFw□	[小] 25.wPc□ 64.wlo□ 67.wDc□ 72.wSw□ 73.wFw★ 77.wOe★ [中] 18.wPc★ 45.wFw★ 91.wFw★ 99.wFw★ [大] 54.wFw★	[小] [中] [大]
街路+建築型 (S)		7.vSw□ 19.ySw□ 35.wS△	44.vle△ 83.yFw△	50.vPe□	2.wSe□ 6.wlo□ 29.xPp△ 24.xFw□ 58.yUc□ 63.wFw★ 65.zFw★ 60.zDc★	57.wPc□
街区型 (B)		60.zPc□ 34.yS□ 83.zPc□	20.yS△ 42.zDc★ 78.vle★	23.yFw□ 15.xDc□	8.zDc□ 62.zFw□ 31.zle★ 38.vPe★ 77.zDc□ 81.zFw□ 84.yFw□	17.vDc□ 22.wPe□ 36.zDc□ 39.vSw□ 77.zDc□ 81.zFw□
街路+空地 (F)		82.vUm★	4.vDc□	51.vS★	41.wPc□ 59.wFw□	28.vS□ 53.wUc★ 10.ySw□ 95.zFw△ 1.zSw★ 82.zFw□ 98.vDc★
郊外型 (N)		33.wS△ 27.zPw★ 40.vDc★ 49.vS★ 68.vSw★ 76.zFw★ 88.vS★	52.zSd★ 11.xFw△ 3.yFw□ 66.vUc★ 88.vPe△	16.xFw★ 84.xPw★ 28.vO□ 46.zFw□	14.xFw□ 97.vFw△ 9.xFw□ 100.zPc★ 86.vUc★ 96.wPw★	73.zSw□ 12.zDc★ 70.yS★ 48.zSw★ 90.vPw★ 58.vPp★ 69.zPw★

・表中の記号は作品No./規定条件/敷地の平面形状を表している。
 ・表中の[小][中][大]とは敷地のスケールを表わしている。

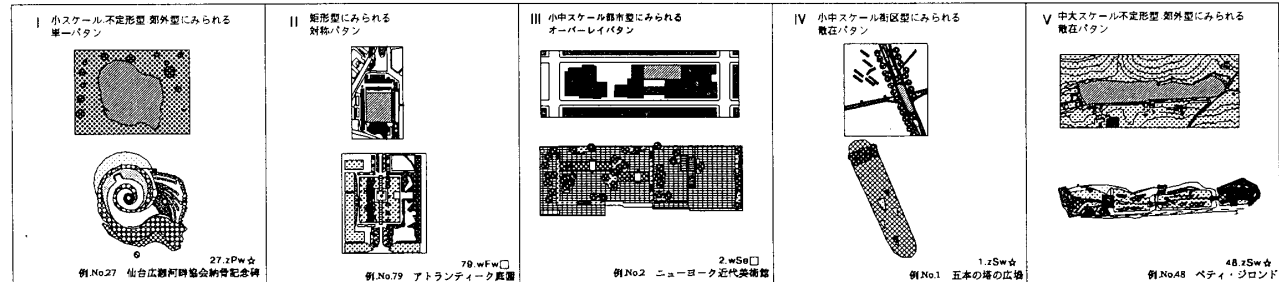


図3 各類型の代表例